

# ピアノ指導者の補助システムの提案 Ver.1

1532148 増田 彩美 指導教員 須田 宇宙 准教授

## 1 はじめに

音楽は老若男女関係なく、多くの人々を魅了するものである。趣味の一環として楽器演奏を上げる人も多く、楽器と音楽が広く世界の人々に愛されるものであることがわかる。日本ではピアノの奏者が200万人ほどいると言われており、大人から子どもまで様々な人がピアノを弾いているが、年代別に分類した場合多くは子どもがその割合を占める。そして、それに従って個人から大手まで多くのピアノ教室が存在している。

しかし、それには問題点がいくつか存在した。そのうちのひとつとして、ピアノの楽譜は初心者にとって読みづらいことが挙げられる。先に述べたように、ピアノ人口は子どものほうが多いという現状から、ピアノを始める物も子どもが多い。だが、子どもにとってピアノの楽譜は難易度が高く、最初に楽譜が読めないことで挫折する人が多いという問題を抱えている。そこで、ピアノ教室では各音符にピアノの音階を書き込んだり、色や記号でわかりやすく表示するような工夫がなされている。しかし、音階を書き込む場合それがピアノ指導者にとって手間になってしまっているのが現状である。他にもピアノの指導者が生徒に曲の流れを教える際、ピアノのト音記号とヘ音記号でバラバラのリズムになる曲を教える場合があり、その状況になった際にすぐにリズムのテンポの違いを判断できないという問題点もあった。

そこで本研究では、ピアノの指導者を支援するシステムを制作する。実際に手間になっているピアノの音階の割り振りや、楽譜のリズムの差異をデジタル化して音や文字で表示することで、指導者の支援を目的とする。

## 2 これからやること

現在、再びピアノの指導者に詳しく話を伺っており、上がった問題点を解決できるような具体的なシステムの概要を考える。また、そのシステムを実際に実現するために何をやるか決める。